

だからむらんなさい、此子はいゝ氣になつて一つも私どもわたくしの言ふ事ことなぞ聞きやしません」と訴へる、老人ろうじんの方は又またやつきとなつて『さう〜お前まへたちの様に、八笠やかしく許あがり言いつて居ゐては、孫まごが可愛あい相あじや、チト子こ供どもの身みにもなつて見るがよい』といふ様な具ぐ合あひで、兎角とかく子こ供ども教育けいよくの上うへに、新舊しんきゅう思想しせうの衝突しゅうつが始はまる、現げんに自じ分ぶんの友ゆう人じんなど、これで頗さかる閉へい口こうして、どこかに赴ゆ任にんする時ときに、赤あかん坊ぼく丈だけは妻さい君くんに托たくして老人ろうじんと一いっ所しょに置おいて、自じ分ぶん一ひと人りで五ご才さい許あがりになる女おんなの子こを連つれて行いつた事ことなぞがある。これは、どこの家庭かていでも随ずい分ぶん困こん難なんを感じかんじる所ところで、どうか、老人ろうじん育そちにしたくない〜とは、よく聞きく所ところである。これには、全まったくところ所ところ困こんる、いや困悩むと許あがり言いつては居ゐられぬが、今日こんにちの場合ばあひどうも致たし方かたがない、然しかしながら、だん〜と新聞しんぶんや雑誌ざっしに

いろ〜教育けいよくの事ことなぞがでてき来て、老人ろうじんたちも新あらたらしい議論ぎろんに接せつすることが多おほいから、自然しぜんそう々々頑ぶ固どな事こと許あがり言いはないで、兎角とかく教育けいよく上うへの事ことは、今いまの學問がくもんをした者ものに任まかせるがよいといふ様やうにはなつて來きたけれども一般いっぱんの場合ばあひは、まだ左さ様さうは行ゆかぬ様やうである。此こ他ほかに、書生しよせいだの、下男かなんだの、又また親類しんるいすぢの人ひとなどが大勢おほいせ居ゐると、どうしても夫それ丈だけけ教育けいよくの統とう一いつの上うへに餘計ちよけいな注ちゆ意いが入いるのである(未完)

(撃 水)

過ぎたる躰しつけ方かた

和田 藏 子

商あきなひの法はふを知らしないで、商賣しょうばいする者ものがありましたら、いつも、失しつ錯さくをいたします、また、人ひとの身体からだ骨格はねくみの理りを知らしないで、醫者いしやとなる者ものがあり

ましたら、之も、あやまちをいたします、之と同
 じく、世の父母若くは、保育の任にわたる者が、
 小兒の身體精神の發達につきて、ひと通りの道理
 をも知らないで、大切の小兒を、吾思ふまゝに、
 保育しようとしませすのは、如何に危ふき仕事では
 ありませんか、例令ば、身心の發達に應じない無
 理な躰け方などをするが如きは、時々見聞する所
 でふいすが之につき、少しばかり思ふ事を申し
 上げて、愛讀諸姉の、御批評を願ひます。

私の近所に、十二三才の女兒がありまして、
 其の兒は、年に比し、身體は小さくつて、其發達
 は實に不完全でありますが、働く事は、大抵の大
 人はとても叶はない位であります、私が其の兒に
 つき、聞き及びました事は、幼なき時父母に死別
 れ、五六才の頃から、其の家へ、養女に貰はれた

二十六

との事ですが、養母は、年も若く、至つて疝持な
 方で、貰ひ早々、未だ、普通の小供ならば、幼稚
 園にでも、行くべき年であるのに、勝手むきの事
 から、買物から一切の仕事を命じまして、若し、
 少しでも、養母の意のまゝにやらぬ事があると、す
 ぐに疝を起して、無理の注文をなす等、養女に對
 し、實に、氣の毒なる次第であります。

右の結果でせう、其兒は身體の發育も悪くつて、
 人の前に出で、は、何時もく臆してばかり居り
 ます。

尤も習慣の力と申すものは、驚くべき者で、如
 何程、むづかしい事も、幼時より、馴らしますれ
 ば、左程に、苦痛を感じませんが、さりとて、小
 兒の精神身體の發達に相當しない躰け方を、無理
 に幼少の時から課しますれば、夫が爲めに、其精

神も身體も決して満足な發達を致す事は出来ませんことは、丁度此兒の様なものであります。

今昔いろは料理

石井泰次郎

(み)

箕やき拵方

松皮やきの如く(松皮やきとは魚の切身を庖丁刀にてすぢちがへに切目を入れてやくことなり)やきて、てり(味醂と醬油とを煮つめたるもの)を敷きて其てりの上に、かやの身のせん切をのするか、又はほそくけつりたる鰹節を毛の如くのせかけて出すべし。

味噌漬の拵方

魚なにも切身にして、うす鹽をふりかけて、

暫くおきて、味噌を酒にて解きて、切身をつくるなり。又味噌を醬油にてとぎつけてもよし。白き味噌に漬くる時は、之を翁つけといふなり。

(し)

鹽焼の拵方

何魚にても、切身にして鹽をふりかけ置き、のち一度其鹽をさつと洗ひて、又鹽をふりて申にさしてやくべし。急ぐ時は多くふりて直に焼くべし。又まるごと焼くなり。

汁の取合せ方

- 一、夕貌の輪切に、墨栗のすりたるをそへてよし。
- 一、冬瓜をみぞれに切りたるに、むきたるしいみをそへ、水に溶きたる芥子をあとし入れてよし。
- 一、ずいきに根芋を取り合はせたるもよし。
- 一、角切りの冬瓜に、花鰹をふり入れたるもよし。